

緑の風 NEWS

JR東労組



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union

2023年 10月25日 No. 37

年末手当要求 議論点その3

2023年度業績予測

社員数の減と
生産性の向上で
1人当たりの売り上げは

過去最高

社員1人あたりの売り上げは過去最高予測

現在、「融合と連携」などの諸施策により、私たちの働き度は高まり続け「過去最高の働き度」と声が出ています。私たちの働き度を示すひとつの指標として「社員1人あたりの売り上げ」を紹介します。

JR発足当時の「社員1人あたりの売り上げ」は約1894万円でした。その後、社員減や効率化施策による生産性の向上が行われ、2007年には「社員1人あたりの売り上げ」は約3173万円となり、期末手当も過去最高の6.2ヶ月となりました。

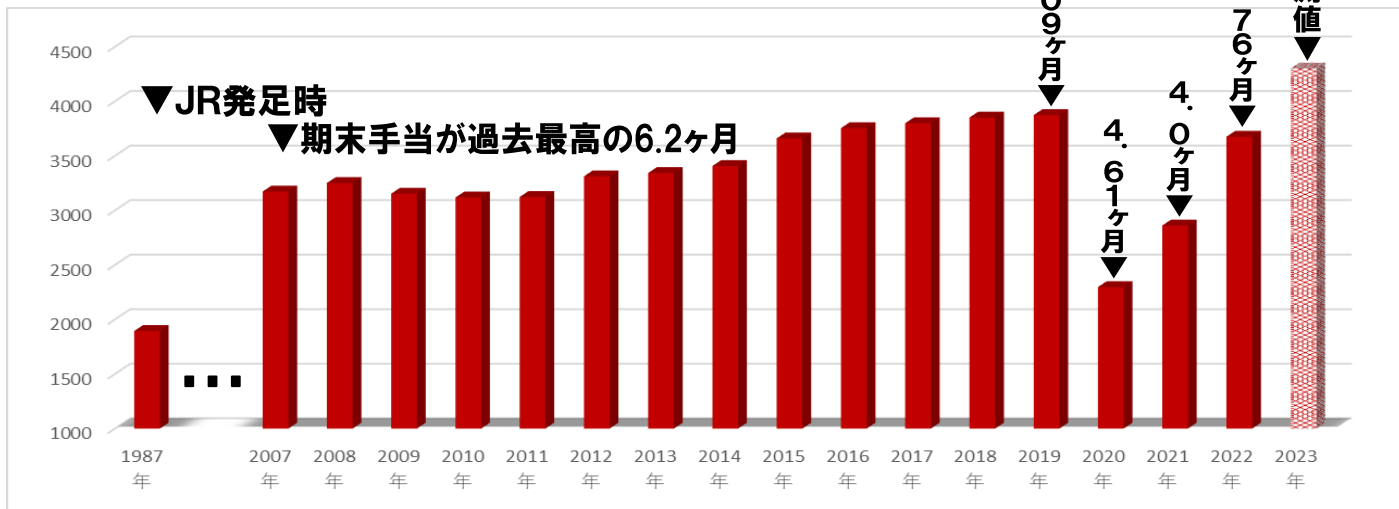
「社員1人あたりの売り上げ」はコロナ前の2019年で約3874万円となり、この数値が過去最高となります。赤字・コロナ禍で売り上げが減少しましたが、様々な施策や職場の努力により、2022年には約3675万円まで回復し、期末手当が過去最高であった2007年の「社員1人あたりの売り上げ」を超えていましたが、賃金は低く抑えられたままとなりました。



社員数
▼減少
生産性
▼向上
賃金
▼抑制

2023年度は会社の予測した収入で「社員1人あたりの売り上げ」を試算すると約4300万円と過去最高の数値を大幅に上回ることが分かりました。このことが社員数の減少と生産性の向上による「過去最高の働き度」に賃金が追いついていない実感となっています。よって、JR東労組は年間6カ月以上に戻すように要求することは当然として、過去最高の2007年度を超える要求を掲げました。

□社員1人あたりの売り上げ(万円) * JR東労組調べ



要求満額獲得に向け組織拡大を実践しよう